

『診療情報コード化による

自動的 HBV リスクマネージメント』

肝臓川柳 『再活性 コードが結ぶ 防止策』



◆今回は当院発信の肝トピックスです◆

免疫・化学療法中の患者さんが、元々HBV キャリアの方のみならず過去に感染歴がある方まで、HBV 再活性化によるB型肝炎重症化が大きな問題となっており、その対策が急務です。当院は独自に、自動的に HBV 再活性化を防止するシステムを構築し、全国的に話題になっています。

去年 10 月より、当院で、電子カルテを利用して、免疫抑制・化学療法を行っている方の HBV に関する診療情報を 0~2 の数値で表し 10 桁の数値でコード化し、

HBs 抗原 HBc 抗体 HBs 抗体 HBVDNA の結果と時期

核酸アナログ投与状況 リツキサン使用有無

B型肝炎対策ガイドラインのフローチャート上の各状態もコード化し対比することにより、非適正状況を自動的にチェックし、それぞれの非適正状況に応じて、必要な検査や投薬のメッセージを主治医に連絡するようになりました。

患者さんの HBV に関する診療情報(コード化)

↑

《コードにより対比》 -----> 非適正状況を自動でチェック

↓

B型肝炎対策ガイドラインの各状態(コード化)

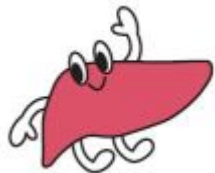
↓

↓

必要な検査や投薬のメッセージを主治医に連絡

約 4 ヶ月が過ぎましたが、すでに、ガイドラインに沿った適正な検査、治療がおこなわれている割合が大幅に増加し、実際に HBV 再活性化が予防された症例が 5 例あり、非常に大きな成果を挙げています。

全国から問い合わせが殺到しており大変な注目度となっています。お問い合わせください。



これだけ覚えておけば損はない!

今 回 の ポ イ ン ト

電子カルテを利用して、免疫抑制・化学療法を行っている方の HBV に関する診療情報をコード化し、B型肝炎対策ガイドラインのフローチャート上の各状態もコード化し対比することにより、非適正状況を自動的にチェックしそれぞれの非適正状況に応じて、必要な検査や投薬のメッセージを主治医に連絡するようにした。

これは当院が構築した自動的に HBV 再活性化を防止するシステムで、適正な検査、治療がおこなわれている割合が大幅に増加し、非常に大きな成果を挙げている。

(文 : 福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ッ俣和夫)